

# 英語教育改善プラン推進事業

## 第3回ワーキング（高校班）

### Yamanashi Model 構築

～「話すこと [やり取り]」を中心とした発信力向上を目指して～



令和4年2月24日（木）14:30～15:40

オンラインによる実施（Zoom）

高校教育課 角田 恵一

# 高校班分科会 次第（14：30～15：40）

- （1）はじめの言葉
- （2）今年度の振り返りと次年度の取り組みについて
- （3）指導助言  
朝日大学 亀谷みゆき 教授
- （4）諸連絡
- （5）おわりの言葉

分科会が終了後、全体会を実施

今年度の振り返りと次年度の取り組みについて

# 本事業の目的

- ① **小・中・高等学校**を通じて、
- ② グローバル社会に生きる児童生徒に求められる **英語による発信力**を向上させるために、
- ③ 実際の目的・場面・状況に応じた英語を活用する課題（**パフォーマンス課題**）を設定し、
- ④ **指導・評価するモデル**を構築する。

# Yamanashi Modelの構築

～話すこと [やり取り] を中心とした発信力向上をめざして～

## 3つの柱

①話すこと [やり取り]    ②言語活動    ③パフォーマンス評価



☆CAN-DOリスト    ☆ループリック    ☆振り返りシート    ☆小・中・高連携

# 研究指定校の取り組み

## 甲府昭和高校

- ・ CAN-DOリストの見直し
- ・ 第1回学習会 オンライン（富高調査官）
- ・ 第2回学習会 甲府昭和高校（亀谷教授）
- ・ 研修会での中間発表（亀谷教授）
- ・ 提案授業（田中先生）配信と動画撮影

# 研究指定校の取り組み

## 富士河口湖高校

- ・ CAN-DOリストの見直し
- ・ 校内研究会
- ・ 小中高連携研修会 （総合教育センター）
- ・ 研修会での中間発表 （亀谷教授）
- ・ 研究授業・研究協議 （亀谷教授）

# 今年度の成果について

## ○新学習指導要領への移行に対する意識

- ・ 4技能5領域版CAN-DOリスト→単元計画・指導案
- ・ 観点別評価→ルーブリック

## ○発信力向上を目指した授業づくり

- ・ 即興性のある「話すこと [やり取り]」の指導
- ・ 言語活動を通じた指導の充実
- ・ パフォーマンステスト（評価）の実施

## ○小中高連携による校種を超えた学び

- ・ 各校種での児童生徒の学び、継続性を意識した指導



# ○新学習指導要領への移行に対する意識

## ・ 4技能5領域版CAN-DOリスト → 単元計画・指導案

山形県立平野短期高等専門学校 CAN-DO リスト 2021.7.28 ver.

**【本資料の目的】**  
 本資料は、英語コミュニケーションにおける「聞く・話す・読む・書く」の4技能に加え、「聞く・話す・読む・書く」の5技能の学習目標を定めた。学習指導要領に基づき、学習指導要領に準拠した学習目標を定めた。学習指導要領に基づき、学習指導要領に準拠した学習目標を定めた。学習指導要領に基づき、学習指導要領に準拠した学習目標を定めた。

技能	Reading	Speaking (Interaction)	Speaking (Presentation)	Writing	その他	
1	1.1 読者の意図や感情を読み取る。1.2 読者の感情や態度を読み取る。1.3 読者の感情や態度を読み取る。1.4 読者の感情や態度を読み取る。1.5 読者の感情や態度を読み取る。	1.1 読者の意図や感情を読み取る。1.2 読者の感情や態度を読み取る。1.3 読者の感情や態度を読み取る。1.4 読者の感情や態度を読み取る。1.5 読者の感情や態度を読み取る。	1.1 読者の意図や感情を読み取る。1.2 読者の感情や態度を読み取る。1.3 読者の感情や態度を読み取る。1.4 読者の感情や態度を読み取る。1.5 読者の感情や態度を読み取る。	1.1 読者の意図や感情を読み取る。1.2 読者の感情や態度を読み取る。1.3 読者の感情や態度を読み取る。1.4 読者の感情や態度を読み取る。1.5 読者の感情や態度を読み取る。	1.1 読者の意図や感情を読み取る。1.2 読者の感情や態度を読み取る。1.3 読者の感情や態度を読み取る。1.4 読者の感情や態度を読み取る。1.5 読者の感情や態度を読み取る。	AC 中級

技能	Reading	Speaking (Interaction)	Speaking (Presentation)	Writing	その他	
2	2.1 読者の意図や感情を読み取る。2.2 読者の感情や態度を読み取る。2.3 読者の感情や態度を読み取る。2.4 読者の感情や態度を読み取る。2.5 読者の感情や態度を読み取る。	2.1 読者の意図や感情を読み取る。2.2 読者の感情や態度を読み取る。2.3 読者の感情や態度を読み取る。2.4 読者の感情や態度を読み取る。2.5 読者の感情や態度を読み取る。	2.1 読者の意図や感情を読み取る。2.2 読者の感情や態度を読み取る。2.3 読者の感情や態度を読み取る。2.4 読者の感情や態度を読み取る。2.5 読者の感情や態度を読み取る。	2.1 読者の意図や感情を読み取る。2.2 読者の感情や態度を読み取る。2.3 読者の感情や態度を読み取る。2.4 読者の感情や態度を読み取る。2.5 読者の感情や態度を読み取る。	2.1 読者の意図や感情を読み取る。2.2 読者の感情や態度を読み取る。2.3 読者の感情や態度を読み取る。2.4 読者の感情や態度を読み取る。2.5 読者の感情や態度を読み取る。	AC 中級

技能	Reading	Speaking (Interaction)	Speaking (Presentation)	Writing	その他	
3	3.1 読者の意図や感情を読み取る。3.2 読者の感情や態度を読み取る。3.3 読者の感情や態度を読み取る。3.4 読者の感情や態度を読み取る。3.5 読者の感情や態度を読み取る。	3.1 読者の意図や感情を読み取る。3.2 読者の感情や態度を読み取る。3.3 読者の感情や態度を読み取る。3.4 読者の感情や態度を読み取る。3.5 読者の感情や態度を読み取る。	3.1 読者の意図や感情を読み取る。3.2 読者の感情や態度を読み取る。3.3 読者の感情や態度を読み取る。3.4 読者の感情や態度を読み取る。3.5 読者の感情や態度を読み取る。	3.1 読者の意図や感情を読み取る。3.2 読者の感情や態度を読み取る。3.3 読者の感情や態度を読み取る。3.4 読者の感情や態度を読み取る。3.5 読者の感情や態度を読み取る。	3.1 読者の意図や感情を読み取る。3.2 読者の感情や態度を読み取る。3.3 読者の感情や態度を読み取る。3.4 読者の感情や態度を読み取る。3.5 読者の感情や態度を読み取る。	AC 中級

- ・ 学習指導要領に基づき、CEFRを参考にしたCAN-DOリストの見直し（同一書式）
- ・ 英語科の教員全員が協働して改訂
- ・ CAN-DOリスト → 単元の計画 → 学習指導案 → 指導 → 評価の一連の過程を踏まえた実践



# ○新学習指導要領への移行に対する意識

## ・観点別評価→ルーブリック

### 【記事】

"Mt. Fuji Clean-up Climbing" started 5 years ago. Kohei Suzuki, a high school student, started it because he was worried about a lot of garbage in Mt. Fuji.

He asked climbers to collect the garbage that they found while climbing. At first, not many people supported him because it took a lot of time to collect garbage while climbing.

However, after Kohei kept asking people to join it after school for about 2 years, the number of people taking part was increasing. Surprisingly, the first big group joining his activity was foreign people. They emailed him before coming to Japan because they had found an online article about him.

Kohei said, "I learned keeping one thing for a long time is sometimes important. Let's keep it together."

### ◎パフォーマンステストにおけるルーブリック（評価基準）

条件①：読んだ内容について、自分が気になった部分を引用しながら、自分の考えや気持ちを伝えている

条件②：ペアの発言に適切に反応したり、理解を示したりしながら会話を続けることができる

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	語彙、表現、文法が適切な英文で話すことができる。	理由や説明を詳細に述べたり、本文を適切に引用したりしながら2つの条件を満たしてやり取りしている。	理由や説明を詳細に述べたり、本文を適切に引用したりしながら2つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
b	コミュニケーションには支障がない程度の誤りのある英文で話すことができる。	2つの条件を満たしてやり取りしている。	2つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
c	bに満たない	bに満たない	bに満たない

### ◎パフォーマンステストにおける具体的なゴール

#### ・思考・判断・表現の評価aのペア

A: Mr. Suzuki kept asking people to join "Mt. Fuji Clean-up Climbing" for 2 years. I'm impressed that he never gave up for such a long time. I can't do the same thing. What do you think?

B: I agree with you. I guess he believes that he will succeed. The most impressive phrase for me is "the first group joining his activity was foreign people", but it is a little disappointing to me.

A: Oh, you are disappointed. Why do you think so?

B: Because the first group was not Japanese people. I think Mt. Fuji is a mountain in Japan, so we Japanese people must work hard to protect the environment of Mt. Fuji.

#### ・思考・判断・表現の評価bのペア

A: Mr. Suzuki said that he learned keeping one thing for a long time is important. I think so too.

B: You think so? Why?

A: Because achieving a goal is not so easy. I think if we want to succeed in something, we should keep doing it. How about you? What do you think about his experience?

B: He said, "At first, not many people supported him". But I wonder why not many people supported him. Because I want to join the cleaning activity.

A: You want to join it. Why?

B: I learned about the environment of Mt. Fuji in a class and I like Mt. Fuji, so I want to do something good for it.

・単元末のパフォーマンステストの設定

・評価基準を明確にし、3観点によるルーブリックを設定

・具体的なゴールを明示

## 次年度、新学習指導要領の実施に向けたCAN-DOリストに基づく指導と評価の方向性

# ○新学習指導要領への移行に対する意識

英語教育改善プラン推進事業アンケートまとめ（高校・教師用）

質問番号	質問事項	1回目	2回目
9	<b>CAN-DO</b> リストに基づいて、単元ごとや複数単元後に、実際の目的や場面、状況等に応じて英語を活用する課題（ <b>パフォーマンス課題</b> ）を設定し、指導と評価を一体的に行っていますか。	62.5%	93.8%

- ・ **CAN-DO**リストに基づく、指導と評価の一体化に対する教師の意識の変化

# ○発信力向上を目指した授業づくり

- ・即興性のある「話すこと [やり取り]」の指導

各校の振り返りコメントから

- ・「相手の発話に対して反応をしたり、発言を繰り返したり、質問をしたりするやり取りの例をALTとJTEの会話を見せて示したり、一つのトピックについて様々な質問を生徒に考えさせたりして、段階的に指導するようにした。」（甲府昭和）
- ・「スモールトークでの長期的な指導により、生徒の運用能力の向上、また英語で自分を表現することへの敷居が下がった様子が見えた。」（富士河口湖）

# ○発信力向上を目指した授業づくり

英語教育改善プラン推進事業アンケートまとめ（高校・教師用）

質問番号	質問事項	1回目	2回目
4	授業において、日常的または社会的な話題について、 <b>即興</b> で自分の考えや気持ちなどを英語で <b>伝え合う</b> 言語活動を行っていますか。	50.0%	75.0%

・授業において即興的な話すこと（やり取り）を行うこと  
に対する教師の増加

# ○発信力向上を目指した授業づくり

英語教育改善プラン推進事業アンケートまとめ（高校・生徒用）

質問番号	質問事項	1回目	2回目
9	授業において、日常的または社会的な話題について、 <b>即興</b> で自分の考えや気持ちなどを英語で <b>伝え合う</b> 言語活動が行われていると思いますか。	84.7%	91.3%

・授業中の活動として、即興的な話すこと [やり取り] が行われていることを生徒も実感できている

# ○発信力向上を目指した授業づくり

- ・言語活動を通じた指導の充実

各校の振り返りコメントから

- ・「言語活動は、実際の言語の使用場面を具体的に想定し、生徒が目的を意識して活動を行うことができるように準備した。生徒は、目的や場面、状況に応じて、互いの考えや気持ちを伝え合うことができるようになった。」（甲府昭和）
- ・「授業の中で、思考力・判断力・表現力等を育成することを心掛け、定期試験においても、その力をみるための問題を作成するようにした。また、インタビューをして得られた情報をもとに整理して書いたり、教科書を読んで理解したことを踏まえて意見を伝え合ったりする、領域統合を意識した言語活動を行うように工夫した。」（甲府昭和）

# ○発信力向上を目指した授業づくり

- ・言語活動を通じた指導の充実

各校の振り返りコメントから

- ・「アウトプットのを機会を十分に作れた。スモールトークを行い、その時期に合わせた話題や、教科書の内容に関連する話題を英語で口にすることができた。」（富士河口湖）
- ・「「もっといろいろな人と英語でやり取りをしたい」という生徒が現れてきて、活動中も表情が晴れやかな生徒も多く、英語を通じて互いの考えや気持ちを伝え合うこと自体を楽しんでいる様子が伺えた。」（富士河口湖）



# ○発信力向上を目指した授業づくり

## 英語教育改善プラン推進事業アンケートまとめ（高校・教師用）

質問番号	質問事項	1回目	2回目
2	授業において、英語を <b>聞いて</b> 必要な情報を聞き取ったり、話し手の意図や、話の概要・説明の要点をとらえたりする言語活動を行っていますか。	93.8%	100.0%
3	授業において、英語を <b>読んで</b> 必要な情報を聞き取ったり、書き手の意図や、話の概要・説明の要点をとらえたりする言語活動を行っていますか。	100.0%	100.0%
4	授業において、日常的または社会的な話題について、 <b>即興で</b> 自分の考えや気持ちなどを英語で <b>伝え合う</b> 言語活動を行っていますか。	50.0%	75.0%
5	授業において、スピーチやプレゼンテーションなど、目的や場面、状況等に応じてまとまった内容を理由や根拠とともに英語で <b>発表する</b> 言語活動を行っていますか。	56.3%	75.0%

聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り・発表] における取り組みに対する教師の意識向上

# ○発信力向上を目指した授業づくり

## 英語教育改善プラン推進事業アンケートまとめ（高校・生徒用）

質問番号	質問事項	1回目	2回目
7	授業において、英語を <b>聞いて</b> 必要な情報を聞き取ったり、話し手の意図や、話の概要・説明の要点をとらえたりする言語活動が行われていると思いますか。	92.3%	93.1%
8	授業において、英語を <b>読んで</b> 必要な情報を聞き取ったり、書き手の意図や、話の概要・説明の要点をとらえたりする言語活動が行われていると思いますか。	95.2%	95.2%
9	授業において、日常的または社会的な話題について、 <b>即興で</b> 自分の考えや気持ちなどを英語で <b>伝え合う</b> 言語活動が行われていると思いますか。	84.7%	91.3%
10	授業において、スピーチやプレゼンテーションなど、目的や場面、状況等に応じてまとまった内容を理由や根拠とともに英語で <b>発表する</b> 言語活動が行われていると思いますか。	89.5%	96.8%

聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り・発表] における取り組みは生徒も実感

# ○発信力向上を目指した授業づくり

- ・パフォーマンステスト（評価）の実施

各校の振り返りコメントから

- ・「年間指導計画の中にパフォーマンス評価を位置づけ、教科書の内容や令和4年度からの学習指導要領の目標、Can-doリストを踏まえたルーブリックを作成し、実施することができた。また、どのような力を身に付けてほしいかを、具体例を生徒に見せたうえでルーブリックを提示し、その目標に向かって授業で身に付けさせたい力を明確に示した。生徒は意欲的の授業に取り組み、パフォーマンステストに向けて練習していた。」  
(甲府昭和)
- ・「自分で適切な表現を準備して運用する生徒もあり、即興であることゆえの自由な表現も見えた。」  
(富士河口湖)

# ○発信力向上を目指した授業づくり

英語教育改善プラン推進事業アンケートまとめ（高校・教師用）

質問番号	質問事項	1回目	2回目
10	生徒や英語担当教師と評価基準表（ルーブリック）等を共有し、妥当性、信頼性あるパフォーマンス評価を行っていますか。	75.0%	100.0%

・ルーブリックを示したパフォーマンステストの実施に対する教師の意識向上

# ○発信力向上を目指した授業づくり

英語教育改善プラン推進事業アンケートまとめ（高校・生徒用）

質問番号	質問事項	1回目	2回目
15	評価基準表（ルーブリック）等から、自分が英語を使って何ができればよいのかを理解し、適切にパフォーマンステストが行われていると思いますか。	80.1%	87.0%

・ルーブリックを共有したパフォーマンステストの実施については、生徒の評価も向上

# ○小中高連携による校種を超えた学び

- ・各校種での児童生徒の学び、継続性を意識した指導

非公開

非公開

非公開



- ・小中高の各指定校の協力による公開授業・研究協議やZoomによる授業のライブ配信を実施。
- ・校種を超えて、地域を越えて本事業の研究授業・研究協議などを視聴できる機会を提供。
- ・小中では「どのようなことをどのように学んでいるのか」を知ることによる継続性を意識した指導。

# ○小中高連携による校種を超えた学び

- ・各校種での児童生徒の学び、継続性を意識した指導

各校の振り返りコメント等から

- ・「英語教育改善プラン推進事業を通して得られた成果を小中学校や他の高等学校と共有し、山梨県全体として改善していきたい」  
(甲府昭和)
- ・「中学から高校に継続して指導してほしいこと、高校から中学に指導してほしいことを共有（小中高の研修会）」  
(富士河口湖)

# 今年度の課題について（次年度の取り組み）

## ▲年間指導（評価）計画と共通認識の必要性

- ・いつ、何を、どこで、どのように指導・評価するか
- ・縦（他学年）と横（同学年）、生徒との共通認識

## ▲指導・評価の質的向上（妥当性・信頼性）

- ・教科書を用いた適切な言語活動やパフォーマンス評価（テキストタイプに即した目的・場面・状況の設定）
- ・パフォーマンステスト（評価）での見取り（含ICT利用）
- ・4技能5領域のバランスの取れた指導

## ▲成果・課題の周知と情報共有の不足

- ・指定校内→県下の全学校→全国へ



# ▲年間指導（評価）計画と共通認識の必要性

- ・いつ、何を、どこで、どのように指導・評価するか
- ・縦（他学年）と横（同学年）、生徒との共通認識

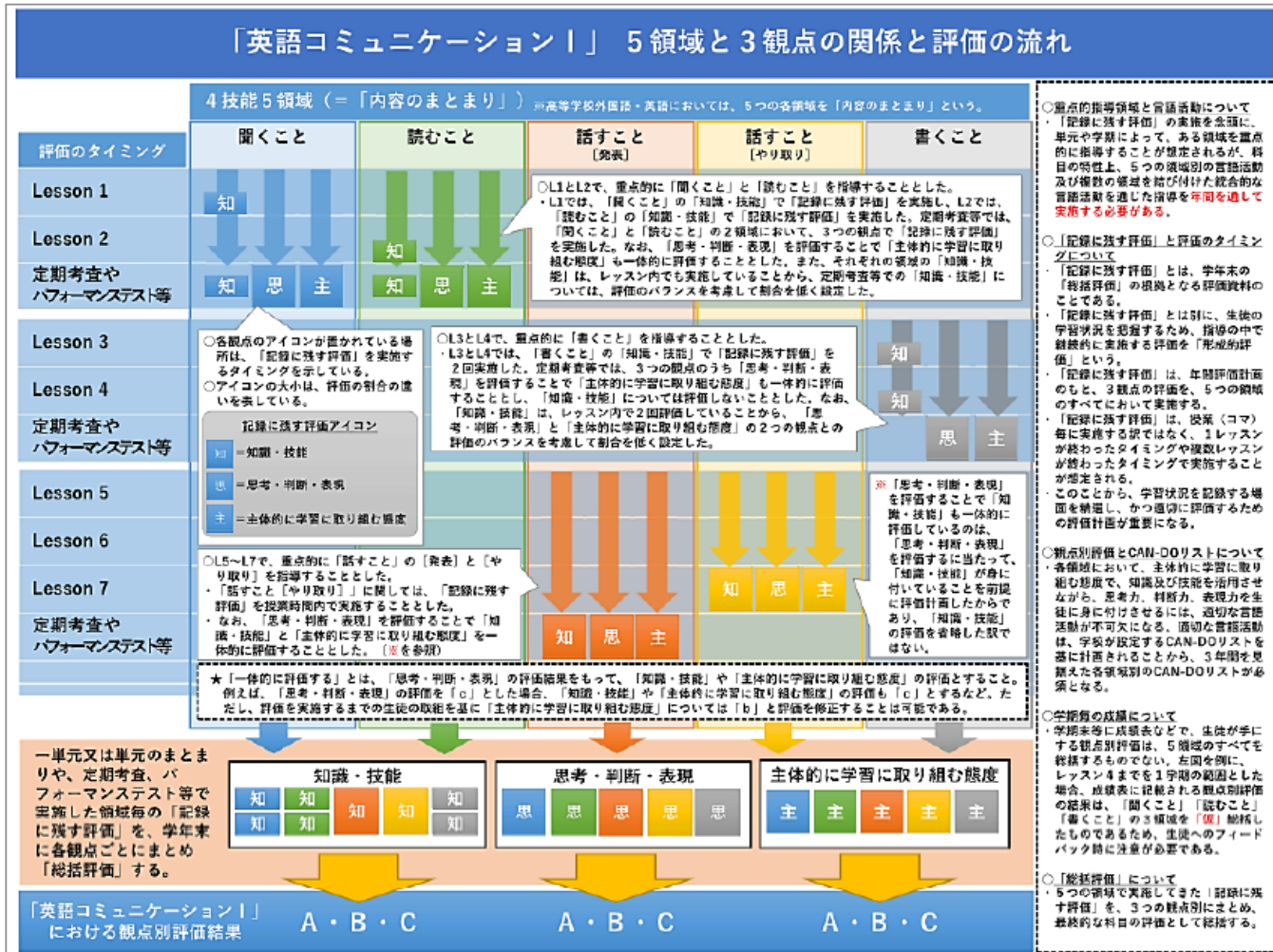
各校の振り返りコメントから

- ・「年度当初の年間の計画の中で「どの力を」「いつ（どのレッスンで）」「どうやって」測るか、ということを決めて、年度開始後にはそれを実行に移すことこそが肝要である。」
- ・「妥当性のある目的・場面・状況を設定できるかは、教員のアイデアの柔軟さによるところが大きく、その授業に関わる教員がチームとしてアイデアを出し合い、計画を練り上げることの大切さを痛感した。」  
(富士河口湖)
- ・「当該科目を担当した教員同士では指導目標や指導内容を共有することができたが、全員での共有ができていない。」  
(甲府昭和)

# ▲年間指導（評価）計画と共通認識の必要性

- ・いつ、何を、どこで、どのように指導・評価するか
- ・縦（他学年）と横（同学年）、生徒との共通認識

- ・各研究指定校に10月以降で、話すこと [やり取り] の研究授業の実施を指定。



- ・指導のタイミングの調整や指導内容（旧課程の教科書のレッスン内容）とのマッチングに苦勞。

- ・次年度は1年生（新課程）、2・3年生（旧課程）。教科内での情報共有、指導目標の共有。

□ 年間指導（評価）計画に基づく実践・研究の在り方。

□ 年度当初に指導と評価について共通認識を持ち、生徒にも丁寧の説明。

# ▲年間指導（評価）計画と共通認識の必要性

英語教育改善プラン推進事業アンケートまとめ（高校・教師用）

質問番号	質問事項	1回目	2回目
11	言語活動への取組において、ポートフォリオ等を用いて、学習を振り返ったり見通しを立てたりして、生徒自らが学習を自覚的に捉えている状況（粘り強さ・自己調整）を、単元または年間を通じて評価していますか。	31.3%	37.5%

**生徒が教師の指導と評価について理解しているか？  
教師の一方的な理解にとどまっていないか？**

## ▲指導・評価の質的向上（妥当性・信頼性）

- ・教科書を用いた適切な言語活動やパフォーマンス評価  
（テキストタイプに即した目的・場面・状況の設定）

各校の振り返りコメントから

- ・「（現行の）教科書を使い、そのテキストタイプに応じて、令和4年度からの学習指導要領の目標やCan-doリストに合う言語活動を考えるのが難しかった。」  
（甲府昭和）
- ・「使用教科書の「どのような単元がどの力を測るのに適切か」について、校内での共通意識を持って設定したい。どんなパフォーマンス課題に対して、どんな読み方をさせるべきかを適切に設定したい。」  
（富士河口湖）

## ▲指導・評価の質的向上（妥当性・信頼性）

- ・教科書を用いた適切な言語活動やパフォーマンス評価（テキストタイプに即した目的・場面・状況の設定）

亀谷先生のコメントから

- ・「トピックの選定の仕方は正しかったか？英文のジャンルごとに力をつけさせたい部分を明確にすることが大切。」
- ・「この単元が終わったら、英語で何ができるようになるのか？」という部分を明確にすることが大切。
- ・「どのような目的・場面・状況で何ができるようになるか」もっとクリアにしていく必要がある。

## ▲指導・評価の質的向上（妥当性・信頼性）

- ・パフォーマンステスト（評価）での見取り（含ICT利用）

亀谷先生のコメントから

- 「目標が曖昧であると評価が難しくなる。「これができたらB」を決めると指導しやすくなり、活動がクリアになる。」
- 「生徒同士でフィードバックを行う場合は、手段よりも、子どもたちの気づきに本当につながっているのか、学びになっているのかというところを意識させたい。」
- 生徒がパフォーマンスのビデオを撮影することの意義はなにか？態度を見るのか、内容を見るのか、そこを明確にすることが大切。

# ICTを活用した英語科の授業について

## ★これまでの活用イメージ



### 【活用の仕方】

- ・教科書の内容・スライド資料・動画などをスクリーンに映し、全員に説明する。
- ・生徒の解答やノートを書画カメラなどで映写し、共有する。

### 【メリット】

- ・生徒が端末を用意（購入）する必要がない。
- ・教師が授業をコントロールしやすい。

### 【デメリット】

- ・座席によって見にくい。
- ・個に応じた指導が難しい。
- ・生徒の学習状況を把握しにくい。

## ★1人1台での活用イメージ

### 【教師の活用】

- ・教材や課題の提示・配付と回収、小テスト
- ・授業中の学習状況の把握・協働学習での利用
- ・提出物のチェックと評価
- ・パフォーマンステストのチェック（文章・音声・動画）



### 【生徒の活用】

- ・発表資料の作成・課題実施・提出  
→学びの蓄積
- ・情報の共有・協働学習
- ・WEBによる調べ学習
- ・各自で動画視聴による学習
- ・英文を読む・聞く・書く・話す  
→文章・音声・動画で記録に残す  
(パフォーマンステスト)



### 「学習支援ソフト」



クラスルーム  
(Apple)



Google Classroom  
(Google)



TEAMS  
Teams for Education  
(Microsoft)

# ▲指導・評価の質的向上（妥当性・信頼性）

## 英語教育改善プラン推進事業アンケートまとめ（高校・教師用）

質問番号	質問事項	1回目	2回目
6	授業において、日常的または社会的な話題について、自分の考えや気持ちを、目的や場面、状況等に応じて理由や根拠とともに英語で <b>書く</b> 言語活動を行っていますか。	93.8%	75.0%
7	授業において、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で <b>問答したり意見を述べ合ったりする</b> 言語活動を行っていますか。	87.5%	68.8%
8	授業において、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で <b>書いて</b> まとめたり、自分の考えを英語で <b>書いたりする</b> 言語活動を行っていますか。	68.8%	62.5%

「聞く」「話す」の数値が向上した一方、「書く」ことの数値が減少。4技能5領域のバランスの取れた指導の必要性。



## ▲指導・評価の質的向上（妥当性・信頼性）

- ・ 4技能5領域のバランスの取れた指導

亀谷先生のアドバイスから

- ・ 「発信、やりとりが先行し、受信能力のスキル育成という点ではまだ不十分な印象を受ける」
- ・ 「readingについて、どのように内容理解をさせているか」

今年度は「話すこと [やり取り]」での実施を県から各校に依頼

→各校が既に作成済みの指導計画の中で実施したため、無理が生じた

□発信力の向上を目指す、

- ・ 実施時期や生徒の実態等、各校の事情に合わせて実施内容を検討
- ・ 技能統合的な取り組みで5領域をバランス良く指導

# ▲成果・課題の周知と情報共有の不足

・ 指定校内→県下の全学校→全国へ

英語教育改善プラン推進事業指定校  
研究授業及び研究会【12月版】

別紙

話すこと[やり取り]の授業  
・Small Talk のやり方  
・即興性・継続・発展のあるやり取りの力を高めるためには？

言語活動を通じた指導  
・目的・場面・状況に応じて英語を使う  
・児童生徒の気づきを促すには？

パフォーマンス評価  
・どんなパフォーマンス課題を設定する？  
・信頼性・妥当性のある評価につなげるためには？

児童生徒の英語発信力向上

実践を通して、日々の授業改善について、共に学びましょう。  
校種を問わず、気軽に視聴できますので、ぜひ活用してください。

配信1

日時：2021年12月8日(水)  
指定校：昭和町立押原中学校  
研究授業：10:50~11:40 (Zoom 受付11:20~)  
第1学年 Unit7 Research on Australia (Sunshine English Course①)  
ALT の先生に旅行を満喫してもらうために、おすすめの場所についてやり取りしよう。  
研究会：11:50~12:40  
指導助言 太田 洋先生 (東京家政大学教授)  
田中 武夫先生 (山梨大学大学院総合研究部教授)

配信2

日時：2021年12月8日(水)  
指定校：甲府昭和高等学校  
研究授業：14:25~15:15 (Zoom 受付13:55~)  
第1学年 Lesson 8 The Secrets of Cup Ramen  
(World Trek English Communication1 New Edition)

配信3

日時：2021年12月13日(月)  
指定校：南部町立睦合小学校  
研究授業：13:45~14:30 (Zoom 受付13:15~)  
第6学年 Unit7 My best memory. (New Horizon Elementary)  
小学校生活の思い出、行事を伝え合おう。

・ 今年度は研究指定校内を中心に研究授業・研究協議等のライブ配信を実施。

・ 全県下の小中高にチラシ（左を参照）を配付して、広く周知を呼びかけたが、視聴者を増やすことが必要。

・ コロナの影響で会議がオンデマンドやオンラインとなり、小中高連携の取り組みについて、高校の先生方に周知する機会が減少。

□ 県教委・総合教育センター・英語部会の連携のもと、事業の取り組みについての積極的な周知、動画など成果の利活用。

□ 静岡、三重、鹿児島とアライアンス関係による情報共有、オンライン研修実施の予定。

# 指導・助言

朝日大学 教授 亀谷みゆき 先生より

# 次年度の取り組み (案) 2月21日時点

- 4月～5月 指定校連絡会議・アンケート調査①・ワーキング①  
オンライン配信（年間を通じて）・アライアンス委員会①
- 6月～8月 授業実践・学習会・提案授業公開・アライアンス委員会②  
オンライン合同研修会①（アライアンス）
- 9月～12月 授業実践・学習会・提案授業公開・ワーキング②  
アライアンス委員会③・オンライン合同研修会①（アライアンス）
- 1月～2月 授業実践・学習会・アンケート調査②・ワーキング③  
アライアンス委員会④・成果発表会

# 10分休憩後、全体会（小中高）となります

一度Zoomを退出し、全体会のZoom会議に再度お入りください。

全体会のURL：<https://zoom.us/j/93968405598>

ID：939 6840 5598

パスコード：20220224

☆全体会は15：50～16：45を予定しています。

# 全体会 次第 (14:30~15:40)

(1)はじめの言葉

(2)事務局より (河西指導主事)

(3)指導助言

山梨大学 田中武夫 教授

(4)質疑応答

(5)諸連絡

(6)おわりの言葉